

事例 17

地域や社会に貢献する商業教育の実践
～北商ブランドの確立と地域への持続可能な還元～

オホーツク管内 北海道北見商業高等学校

1 研究のねらい							
<p>(1) 商業科目「ビジネス基礎」「課題研究」「総合実践」「マーケティング」の学習内容の充実を図る。</p> <p>(2) 地域の企業や関係自治体と連携して、オホーツクエリアの豊富な資源を利用した、高校生の視点によるオリジナル商品やイベント提案等のサービスの開発を進めることで、より専門性の高い知識や技術の習得を目指す。</p> <p>(3) 持続的に地域を活性化させることができるよう、北商ブランドによる商品やサービスを確立し、将来の地域産業の担い手を育て、地域経済を活性化させることのできる人材の育成を目指す。</p> <p>(4) 北見で行われる地域イベント「菊まつり」において、北商オリジナル商品を販売した。また、イベントの提案を行い、北商ブランドの地域への認知と定着を目指す。</p>							
2 計画の概要							
<p>【第一年次】 地域における専門高校への期待を確認し、地域の食や観光等の地域の特色を把握する。</p> <p>【第二年次】 高校生の視点から資源を見つめ、北商ブランドの計画を立案する。</p> <p>【第三年次】</p> <p>(1) 地域の食や観光等における北商ブランドの商品化を行う。</p> <p>(2) 北商ブランドの確立と継続的な地域への還元を行う。</p>							
3 研究内容と自己評価							
(1) 持続可能で地域に還元できる実践研究				自己評価			
第一 年 次	地域における専門高校への期待を確認し、地域の食や観光等の地域の特色を把握する。			A	B	C	D
	①平成24年5月11日 外部講師講演会「北見の名所・行事」 講師 北見市役所観光振興課 対象科目 1年「ビジネス基礎」			○			
	②平成24年6月19日 外部講師講演会「地域素材の活用と展開」 講師 北海道立オホーツク圏域食品加工技術センター 研究員 対象科目 1年「ビジネス基礎」2年「マーケティング」			○			
	③平成24年8月28日 外部講師講演会「社会人として」 講師 北見青年会議所 理事長 対象科目 3年「総合実践」			○			
	④平成24年8月31日 外部講師講演会「地域資源の活用例」 講師 北見市役所 産業連携推進課			○			

	<p>⑤平成24年11月 地域活性化に関するアンケート実施 第22回全国産業フェア岡山大会・地域自治体関係者・本校生徒 対象科目 3年「総合実践」</p> <p>⑥ 平成25年2月2日 教員研修 ファシリテーションに関する実技講座 話題提供者 リバーサイドパートナーズ代表パートナー 教員2名参加</p> <p>⑦ 平成25年2月7日 教員研修 地場産品の高付加価値化・販路拡大セミナーの参加 講師 サッポロビール株式会社 外食戦略部 一般財団法人北海道食品開発流通地興 有限会社 サンフーズ 代表取締役 教員1名参加</p>		○			
第二 年 次	<p>高校生の視点から資源を見つめ、北商ブランドの計画を立案する。</p> <p>※ 第一年次実施の①②③④について、第二年次においても実施</p> <p>①平成25年10月12日 販売実習会 東武イーストモール端野店 対象科目「総合実践」 地元野菜・オリジナル生うどん・オリジナルアイスクリーム・オリジナルパン（北見市 日日ベーカリー協力）・高校関連商品（道内商業高校9校）等の仕入計画、商品企画、販売活動を実施</p> <p>②平成25年10月 課題研究販売体験 対象科目「課題研究」 「フェアトレード」研究班による、地元企業と連携した商品開発と、地域イベントへの出店、販売体験の実施</p> <p>③平成25年11月 松本大学高校生アイデアコンテスト出品・入賞 対象科目「マーケティング」</p> <p>④平成26年3月19日 創業実践セミナー 講師 中小企業診断士 教員1名参加</p> <p>⑤感覚に頼らないパッケージ&ネーミング講座 講師 コピーライター 教員1名参加</p> <p>⑥平成26年3月24日 オホーツク小麦フェスタ 講師 さぬき麺業株式会社 教員1名参加</p>	A	B	C	D	
第三 年 次	<p>地域の食や観光等における北商ブランドの商品化を行う。北商ブランドの確立と地域への還元を行う。</p> <p>※第一年次実施の①②③④について、第三年次においても実施</p> <p>※第二年次実施の①②について、第三年次においても実施</p> <p>①平成26年6～9月 ビジネスプラン作成に関する講演会 講師 日本政策金融公庫 所長</p> <p>②平成26年8月 ビジネスプラン田舎力甲子園奨励賞受賞</p> <p>③平成27年1月 日本政策金融公庫ビジネスプラン ベストプラン100受賞</p>	A	B	C	D	
(2) 地域産業界や自治体等との連携		自己評価				
第一	<p>地域における専門高校への期待を確認し、地域の食や観光等の地域の特色を把握する。</p> <p>①平成24年9月13日 校外体験学習（商店街販売体験）</p>	A	B	C	D	

年次	<p>場所 北見市駅前商店街 対象科目 1年「ビジネス基礎」</p> <p>②平成24年9月15日 地域施設実習（アイスクリーム製造） 場所 置戸町JAアイスクリーム製造施設 対象科目 3年「総合実践」</p> <p>③平成24年9月25日 地域施設見学 場所 京セラ株式会社北見工場 JAきたみらい玉ねぎ選果場 対象科目 1年「ビジネス基礎」</p> <p>④平成24年10月3日 講演会 オホーツク食品開発研究フェア&第9回オホーツクブランド認証式 公益財団法人 中小企業総合支援センター 対象科目 3年「総合実践」</p> <p>⑤平成25年1月16日 第1回地域パートナーシップ会議 地域パートナーシップ委員4名 教職員4名出席 Skill Upプロジェクトに関する説明、協力依頼</p> <p>⑥平成25年3月18日 第2回地域パートナーシップ会議 地域パートナーシップ委員4名 生徒12名 教職員6名出席 地域活性化をテーマにグループ討議を実施</p>	○				
第二 年次	<p>高校生の視点から資源を見つめ、北商ブランドの計画を立案する。</p> <p>※第一年次①③については第二年次も実施</p> <p>①平成26年6月27日 第3回地域パートナーシップ会議 地域パートナーシップ委員5名 生徒16名 教職員6名出席 地域イベント・地域素材に関するグループ討議を実施</p> <p>②平成26年3月18日 第4回地域パートナーシップ会議 地域パートナーシップ委員5名 生徒10名 教職員7名出席 菊まつりの活性化についてグループ討議を実施</p>	A	B	C	D	
第三 年次	<p>地域の食や観光等における北商ブランドの商品化を行う。北商ブランドの確立と、継続的な地域への還元を行えるようにする。</p> <p>①平成26年6～8月 菊の栽培講座に参加 生徒4名 菊に関する専門性を高めるために栽培講座を受講し、菊の苗を実際に栽培した。</p> <p>②平成26年6月～平成27年3月 菊農家の訪問 生徒4名 北見市内で菊を栽培している農家の方を訪問。食用菊の生産者の現状と菊まつりに向けての本校の取組について協力を依頼</p> <p>③平成26年10月 食用菊の調査 ホテル黒部 生徒2名 ホテル黒部では、北見での菊まつり開催中に、食用菊を利用した和洋中のメニューを提供しており、食用菊を食材として利用するとき、食用菊を食材として利用するとき、過去に気をつけていることや、過去のメニューなどについて調査</p> <p>④平成26年10月 製麺業ツムラ訪問・菓子業志賀甘栄堂訪問 生徒3名 菊入りの商品の製作依頼。「乾燥麺」と「冷凍菊」を持っていき、どのように商品化するかについて話し合いを行う。</p> <p>⑤平成26年10～11月 地域イベントでオリジナル商品販売 北見菊まつり物産コーナー・北見商店街「まちななかSHOW10」 北見菓子まつり・COOP食べるたいせつフェスティバル</p>	A	B	C	D	

4 研究の成果

(1) 持続可能で、地域に還元できる実践研究

- 地域の歴史、産業などについての講演会を外部講師を招いて4回実施した。いずれの講演も、生徒の意識を高めるとともに、学習内容の幅を広げることができ、授業に意

欲的に取り組む生徒が多くなった。

○ファシリテーション技術に関する講演会を実施したことで、会議の企画や進め方についての理解を深めることができた。また、身に付けた技術を地域のイベントで活用することにより、身に付けた技術を定着させることができた。

○地域活性化に関するアンケートを実施し、基礎データを収集することができた。

(数値は平成24年度→平成25年度→平成26年度)

Q1 あなたの地域の活性化度についてどう思うか。

とても元気がある まあ元気がある あまり元気がない 全く元気がない
5%→4%→5% 45%→39%→38% 45%→48%→49% 8%→9%→8%

Q2 あなたの地域を再生・活性化するために、特に何が必要だと思いますか。

商店街の活性化 お祭りやイベント 暮らしやすさ その他
25%→26%→23% 21%→25%→32% 16%→15%→14% 38%→34%→31%

(2) 地域産業界や自治体等との連携

○北見市内の工場や農産加工の施設・設備を見学したことで、地域の産業についての理解を深めることができた。

○北見市のイベント「北見菊まつり」を活性化させるため、食用菊を利用した商品開発に取り組んだ。地域の菊生産農家を訪問し、食用菊の生産に関する調査を行うとともに、地域の製麺業者と菓子販売業者の協力を得て、顧客のニーズに応じた食用菊を利用した商品を、高校生の視点から開発することができた。

○地域企業との連携により、オリジナル商品である「北商菊ラーメン」と「北商菊スイーツ」を開発し、イベントや実習販売会等で販売活動を行うことにより、地域住民に北見商業高校の教育活動をPRすることができた。また、開発から販売までの一連の業務を体験的に学習したことで、商業活動の流れを実践的に理解することができた。

○生徒のコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を高めるため、2回目の地域パートナーシップ会議から生徒参加型の形式とした。このことにより、地域パートナーシップ委員、生徒、教員が直接話し合う機会を設けることができるとともに、生徒が自主的に地域パートナーシップ会議を計画、運営することで、将来の地域産業の担い手となることに対する意識を高めることができた。

5 今後の取組方針

(1) 外部講師講演会の実施

外部講師による、地域に関する講演会を継続し、将来の地域産業の担い手としての意識を高める。

(2) 地域イベントへの参加

開発した北商ブランド商品を地域イベント等で販売するとともに、販売時に調査を実施し、調査結果に基づいて商品の改善を図る。

(3) 地域パートナーシップ委員との連携

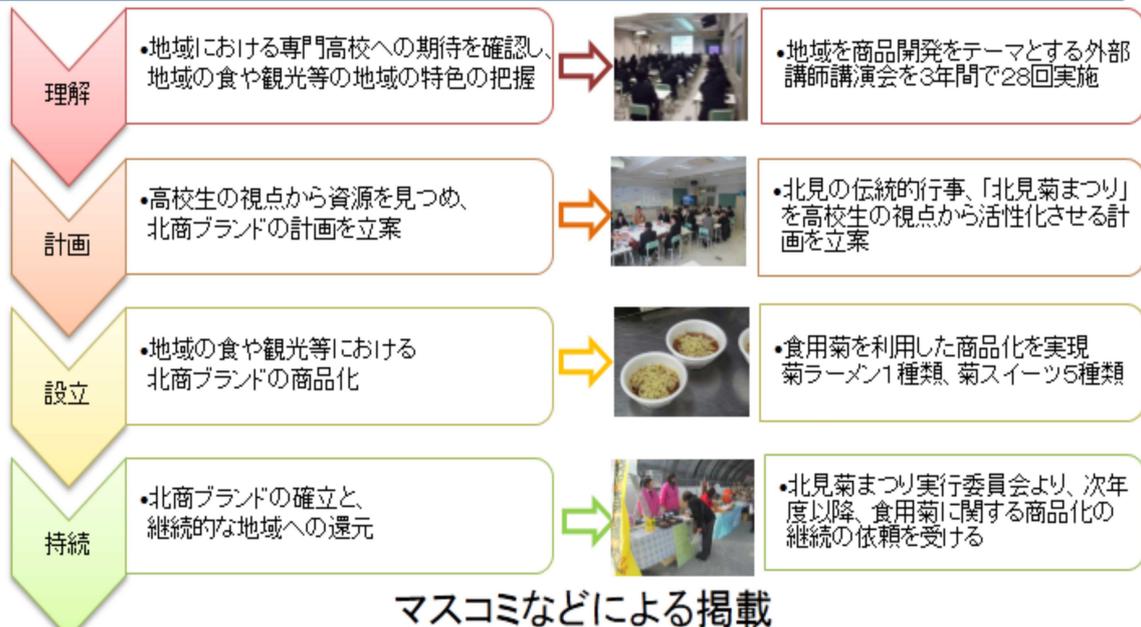
地域パートナーシップ委員と連携を図り、本校の今後の取組について情報提供するとともに、意見を聴取する。

専門高校Skill Upプロジェクト パイオニア・トレーニング実践研究校
北海道北見商業高等学校

テーマ：地域や社会に貢献する商業教育の実践
～北商ブランドの確立と地域への持続的な還元～

ねらい

- ①商業科目「ビジネス基礎」「商品と流通」「総合実践」「マーケティング」「課題研究」の学習内容の充実。
- ②地域の企業や関係自治体と連携し、地域資源を活用した、オリジナル商品やサービスの開発。
- ③北商ブランドによる商品やサービスの確立と、将来の地域産業の担い手を育て地域を活性化させることのできる人材の育成。



平成26年10月26日北海道新聞
商品開発に関する記事

平成26年10月11日経済の伝書鳩
地域パートナーシップ会議

平成27年1月20日北海道新聞
地域活性化コンテスト入賞

